

地域特性に応じた生物多様性への配慮

生物多様性の保全に関しては、「昆明・モントリオール生物多様性枠組」の採択や、我が国における「生物多様性国家戦略2023-2030」の策定など国内外の動きが加速しています。当社では「経団連生物多様性宣言」への賛同等を通じて生物多様性に関する取り組みを推進しています。

WEB 経団連生物多様性宣言イニシアチブホームページ
<http://www.keidanren.or.jp/policy/2020/055.html>

環境アセスメント(環境影響評価)の実施

発電所などを新しく建設、増設するときは、法令等に基づき、最新の技術を駆使した環境アセスメントを実施します。周辺の自然環境や社会環境にどのような影響があるか事前に十分な調査・予測・評価を行うとともに、地域の皆さまの意見を聞き、それらを踏まえ適切な環境保全対策を講じることによって、周辺への環境影響を最小限に抑えています。

発電所運転開始後の周辺環境のモニタリング

発電所運転開始後には、関係自治体と締結した環境保全協定等に基づいて、発電所周辺における大気、海域などの環境の状況をモニタリングし、関係自治体にその結果を報告するとともに公表しています。

WEB 三隅発電所環境等監視結果
<https://www.energia.co.jp/area/shimane/entry/12008.html>

WEB 島根原子力発電所周辺環境放射線等調査結果(島根県ホームページ)
https://www.pref.shimane.lg.jp/bousai_info/bousai/bousai/genshiryoku/sihannki.html

発電事業に関するリスクと機会

当社の国内の主要な発電所は瀬戸内海国立公園や大山隠岐国立公園などを有する自然豊かな中国地域にあり、生物多様性の保全にとって重要な地点に位置しています。当社では今般、TNFD^{*1}フレームワーク(ベータv0.4版)を参照し、国内発電事業に関するリスクと機会について以下のように整理しました。今後、より詳細な分析・対応を検討していきます。

	リスク	機会
火力・原子力発電所	<ul style="list-style-type: none"> ◆将来的な水ストレス^{*2}の増加による規制の強化に伴う出力抑制 ◆燃料原産地における環境・政策の変化に伴う燃料調達の高騰 ◆将来的な排出ガス規制の強化^{*3} ◆生物多様性に対する対応が不十分と判断された場合の信用低下、事業活動への影響 	<ul style="list-style-type: none"> ◆Jブルークレジット創出等による企業価値の向上 ◆Jブルークレジット創出ノウハウ等を活用した自治体等との協業による新たな市場機会の獲得
水力発電所	<ul style="list-style-type: none"> ◆将来的な規制強化による取水・放水制限による出水率の低下 ◆上流・下流での生物多様性保護に関する対応コストの増 ◆生物多様性に対する対応が不十分と判断された場合の信用低下、事業活動への影響 	<ul style="list-style-type: none"> ◆水源かん養林を活用したJクレジット創出による新たな市場機会の獲得や、自然共生サイト^{*4}認定等による企業価値の向上

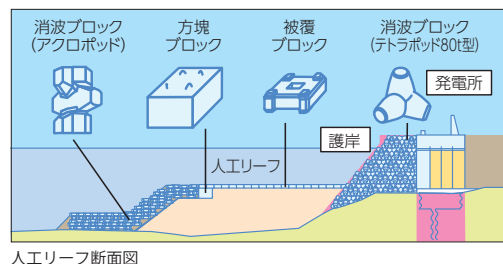
^{*1} Taskforce on Nature-related Financial Disclosuresの略(自然関連財務情報開示タスクフォース) ^{*2} 水需給のひっ迫等の水資源問題
^{*3} 火力発電に特有の事項 ^{*4} 「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定する区域

TOPICS 人工リーフの設置による魚介類の生育環境の創出

島根原子力発電所3号機では、防波護岸前面の海域に人工リーフ(浅瀬)を設置することにより、水深が浅くなったことで、海底面に太陽光が届きやすくなり、クロメなどの海藻草類や魚介類の良好な繁殖・生育の場となっています。

当社は、藻場がCO₂を吸収して温室効果ガス削減につながることに着目し、Jブルークレジットの審査において、2017~2021年の5年間で15.7tのCO₂吸収量が認証され、クレジットとして取得しました。

WEB 島根原子力発電所3号機の人工リーフ併用防波護岸による藻場造成を活用したJブルークレジットの認証について
<https://www.energia.co.jp/info/2023/14538.html>



Jブルークレジット発行証書交付式



水源かん養林の維持管理

水力発電に必要な水を継続して確保・利用するため、岡山県の吉井川・高梁川、広島県の太田川の上流に約1,500haの水源かん養林を保有し維持管理を行っています。

これらの森林は、水源かん養機能を持つほか、CO₂の吸収や土砂流出の防止、野生動植物の生息環境保護など多くの機能を有しています。



ヒノキ人工林(岡山県苫田郡)